

国分寺市図書館運営協議会 第5期第3回定例会要点記録

日時：平成27年5月27日（水） 午前9時30分から11時30分

場所：本多公民館 講座室

欠席 1人 傍聴：1人

会長：3回目の定例会議を始める。協議事項から。図書館評価について。

課長：今年度初めてなので、組織改正について。社会教育担当部長が（新たに）でき、社会教育課、図書館、公民館を専門に所管。教育部長は学校関係を所管し、あとは総合管理しているという割り振りに変わった。前教育部長の小山社会教育担当部長は本日（出席予定だったが）日程が合わず欠席。大きいところでは社会教育スポーツ振興課のスポーツの部分が市長部局に移った。4月に異動があり、本多図書館の清水係長が退職し、鈴木が学校指導課から図書館に7年ぶりに戻った。

係長挨拶：4月1日に本多図書館の係長としてきた。入職して16年間図書館にいた。

学校指導課から7年ぶりに戻った。よろしくお願ひしたい。

課長：（図書館評価の説明）平成25年度の図書館評価について出ているが、真ん中の27年度のところに取り組み事業を抜粋した形で作成してある。本日は時間がないので、今年度力を入れたいところを説明する。以下説明。

会長：項目が多岐にわたるので一度見ても何をどうするかというところまではわからない。前回からの引き続きで、第2次評価の、運営委員会の4期で承認した結果を受けて27年度の取り組みをここに取りこみ新たな取り組みとして発足したという説明をいただいた。時間がないので聞いた中で質問や全体的な評価の問題に意見があれば言っていたら。何か今後の図書館運営に役立つ意見があれば出していただきたい。

委員：図書館ボランティア制度について、よくわからない。数か月前の市報で、本多図書館で、興味のある本を持ち寄って本の紹介をするという企画があったが、そういう企画はいいと思う。ボランティアの制度の中で、そういう活動を積極的に前向きに。ボランティア制度の枠の中にそういう制度はないのか。

課長：本多公民館の新緑まつりでのリサイクル市・ブックカフェは新しい試みで市民の応援で成り立った。西国図書室というところのスタッフの協力で成り立った。さらに枠を取り払い、市民の方にスタッフとして関わってもらおうという受け皿はある。

委員：図書館というイメージを突き破って、積極的に本を楽しむ活動をやりだした方がいい。事務方を務めなければいけない。市民のほう造詣が深い。子ども版もいい。もう少し市民に対して能動的にやったほうがいい。ボランティア的精神のある人が参加しないといけない。ボランティア制度を設立したらその中に入れて欲しい。

会長：前向きな意見。図書館ボランティアというと、目の前にある仕事について手伝うということになりがちだが。図書館利用を活性化し前向きに市民の図書館というイメージを作り上げていくためには、創造的な仕事も含めて前面に出した方がより

動きが出ると思う。23日の行事に出ている副会長からも意見をもらいたい。

副会長：平山委員もブックカフェに参加してくれた。1時半からリサイクル市のために並んでいた。開始から約15分でブックカフェが始まり、「背中を押された一冊の本」という題で本を持ち寄り、12～18名の参加者で行った。遠巻きの観客も入ってきた。図書館が入ることによって図書館の広がりを楽しみながら感じてくれた。藤川課長の企画がよかったのだと思うが、もう少し早く言ってもらえれば、協議会として協力できたかと思う。市民の協働という話があるが、協議会としても参加したので、協議会も協働の一つとして入れていただければいろいろな立場で図書館に関わっていけるということが示せると思う。

委員：ブックカフェはいいと思った。行きたかったが、仕事だった。もう少し早くお知らせいただければ参加したかった。ボランティアの設立はどのように制度化するのか。

課長：イメージとして2種類ある。ボランティアとして心構えなど養成講座をして手伝ってもらい、書架整理、本の返却、環境整備（自転車整理・花壇の整備）など自分がやりたいことがあれば、参加したいときにふらっと来るという方法がある。国立市がそういう形でやっている。まずは後者のほうで、労働力というより図書館に何らかの形で関わりたいという人たちを、図書館を取り巻くすそ野を広げていきたいということから始めたい。図書館を共同運営していきたい人たちとライトな感覚で行う。専門的にやってもらうのは宅配などの仕事、朗読ボランティアなどがある。それらは養成して行うことであるが、図書館のこんなに面白い仕事を職員だけにさせておくのはずるいという話もあるので、自分たちもという人を増やしていく。

委員：国分寺市は公民館と一緒にするのがメリットだ。公民館に来ている人にアイデアを出してもらいなど、広くやったほうがいい。もうひとつ、予算がなかなか取れず資料が買えないという話だが、何年か前の古いものは取り替えるというのは分かるが、他の古い資料はたとえば市内にできる都立図書館や、東京経済大学の図書館を活用する。お金を使うところはどこか目的をきちんとしていただいた方がいい。専門的な本は提携しているこちらに繋がりますとして、専門書は都立図書館と東経大図書館と連携を取り橋渡しする。図書館の経費をいらない資料のために取っておいてもしょうがない。そうではなく市の図書館の蔵書の充実させなければいけない。長期的な意味で考え、基本的なものはこっちという考えでやらないと、市民と図書館との距離感ができる。古い資料ばかりで趣味系がほとんどない。市の図書館は、レベルが高い人はもっときちんとしたところに行くように教育したほうがいい。そうすると予算が生き生きしてくる。

会長：資料費の要求は非常に難しい状況。現場の人がどういうものを求めているか、意見を吸い上げながら説得できる工夫をする。他に任せることは他に任せる。いろいろな手法が考えられると思う。いいアイデアがあればお話ししたいと思う。予算は一律5パーセントカットなどが流行しているが、そういう中で図書館は市民に支えられ

ている。資料費で還元するしかないというところで考えていただきたい。

委員：ボランティア制度が絡んでくると思う。市民の声が聞こえる一番の場所であるというところで。障害者団体、ボランティアということで構えてしまう。ボランティアの名前を考えてほしい。市民が協力してやるということなので言葉を変えて対応していくことが大事だと思う。

課長：図書館応援隊とか。

委員：市民が作り上げていく図書館というイメージができていると思う。副会長の、楽しかったという声が聞こえるとみんなそうかなと思う。

会長：ブックカフェの企画をして人が集まってきたときに、図書館から何かアピールできるものを提案していく。そこから広がり、いろいろな機会を使って図書館をPRしていくことが必要。目的だけで終わらせるのではなく何かつけて。

委員：草の根的に広がっていく。

委員：ブックカフェに藤川課長に背中を押されて参加した。もとまちで行われた、座間会長の講演会にも参加した。図書館評価について3点ある。一つは西国分寺地区の図書館。中央図書館構想の中で西国分寺の施設。ICタグのこと、一度に多数の貸出、貸出業務のICタグ化により無人で借りられるようになる。カウンター業務の一部業務委託を始めたこと。カウンター委託を進める流れが、大きな流れになる。ICタグが一緒になると図書館の貸出返却は大きく変わる。別の仕事ができる。何ができるか。西国分寺も、それもすべて検討していく内容の大きな柱になる気がする。

会長：西国分寺にできるのは都立多摩図書館。これは立川に今あるが、老朽化して建て替えて西国分寺に移ってくる。国分寺の中央図書館ではない。児童書と雑誌のマガジンバンク、これを都立が売りにしている。ここは事務局からも説明がある。

委員：ボランティアはおはなし会ボランティア以外で検討となっているが、それは困る。おはなし会も要望が増えていくのに、語り手の人が増えていかない。図書館で語り手を育てる講座などの機会を作っていただければありがたい。朗読の会はあるということなので、またそういうことも考えていただきたいと思う。

課長：読み聞かせ講習会を3回行っている。どちらかというと学校でとか家庭で行う人を対象にしている。養成するなら市民にグループの流れ込んでいく仕組みに、今ある中で変えていきたい。また相談しながら仕組みづくりをしていきたい。

委員：読み聞かせ講習会のポスターを、小学校にも貼ってもらえば、参加者がいると思う。

事務局：小学校には配布している。

会長：学校で読み聞かせはやっているか。

委員：低学年中心でやっている。毎週金曜日の朝とかクラスによって違う。

会長：養成講座を積極的に開催していくということでもよろしくお願ひしたい。ほかには。

委員：返却の督促。ハガキからメールへの督促方法を検討するというのは個人メールアドレスを図書館に渡さなければいけないのか。カードを作る際に必要になるのか。

事務局：利用者登録の際には、メールアドレスはいただいているが、リクエストの連絡の際にメールでの連絡を希望される方は自分でアドレスを登録してもらっている。

委員：今はリクエストメールだけ。普通に借りて4週間以上借りている人に今はメールしてはいない。これからするということか。

課長：これからリクエスト連絡に使っているメールを督促にも使うということを個人情報審議会にかけてから行う予定。

会長：メールでの督促は、リクエスト連絡でメールアドレスを届け出た人が対象で、必ずしも、督促者全員がメール登録しているわけではない。

委員：利用者全員がメールアドレスを登録するということか。

課長：それは個人の自由。

会長：督促対象者全員がメール登録するわけではない。

委員：電話番号を入れると同じ形で、メールアドレスを書いてくださいというわけか。図書館に限らずカードを作るときにそういうことがよくあるが。

会長：個人情報の取り扱いは市によっていろいろあると思うので、それに基づいてやることになると思うが、業務の省力化を考えるとある意味や無鵜を得ないと思う。利用者の同意を得たうえで、利用者の個人情報を侵害しない形でやっていただきたい。

委員：ボランティアのところで、読み聞かせ講座は3回しかない。1回目は、こういう本がいいと推薦してくれた。とてもためになったが、次に実際の読み聞かせの講習会をやって、最後に図書館の人の講習があった。これだけではすぐにはできないので、5回くらいでもいい。終了したら、市民グループへの参加を進めるシステムになっていけばいいと思う。

会長：内容の充実ということで検討してほしい。27年度の取り組みの中でも、実現が厳しいところもあると思うので工夫して実施できるように。まだ2か月が経過したところなので、あと10か月あるのでいろいろ取り組んでほしい。

次に2番目の光図書館の一部委託の検証について。

課長：4月から、光図書館はカウンターを中心とした業務委託が始まった。検証委員会を設け、仕様書通りに行っているか、質はどうか、2年後の本多図書館以外の地域図書館の業務委託始めるにあたり、この分野は委託のほうが合うのでは、逆にこちらの仕事は市の職員がやったほうがいいのか、次の仕様書を見据えた業務の点検を目的としている。5月に1回目の検証委員会を行い、7、8、9月に1回ずつ検証委員会をやる予定。手法としては光図書館を利用している利用者アンケートと光図書館の利用者の懇談会を考えている。直接利用者の声を聴く。情報が集まったところで、運営協議会にかけ、コメントをいただくという3つぐらいの方法を考えている。検証委員会には運営協議会からは会長と副会長がメンバーということで相談した。本日配布した資料で設置要綱がある。このような形で行っていくので、ご意見を頂きながら評価していくことを考えている。中間報告を9月にして、29年度から始まる

予算の検証に持ち込む。12 月中に最終報告。3月に条例改正を行う。予算特別委員会を経て決めていく。4月から2カ月近くたつので光図書館長から状況の報告を。

事務局：(委託後の光図書館の様子の説明)

会長：まだ2カ月だが、委託することによってできなかったところがあった。やりにくいところ。しっかりとらえていただければいいと思う。検証委員会にもそのあたりのことを出して、具体的にこれ以降のことを考えていくということになるかと思う。4月以降光図書館を利用した方で何かあるか。

委員：何回か本を借りた。はっきり言って変わりはあまり見られない。カウンターに2人なのも前からの体制。嘱託やアルバイトがいたのが、今はTRCという名札を付けた人がいるが、直接的に大きな変化はない。それだけとってみると変化はない。ただ、慣れていない人がいてカウンターに本を探しに中に入るとカウンターが無人になり、たまたまそういう時に来ると人が足りないのではないかと思うかもしれない。委託者については職員の数は教えてもらったが委託する前は何人か、委託後は何人か、増減が分からない。委託するということはたとえばスーパーなどでレジには本社の人がいるわけではなくアルバイトがいる。社員は別のところにおいてレベルの高いことをやっているわけでそういうことが委託のメリットになってくるのかなど。委託により人件費が下がる。そういったことが検証になる。たとえば今までは職員が10人いたけれど委託の人が5人になったとして5人の人が別のことができるので違いになる。そういったことを考えてとらえていくという手法があると思う。

会長：検証の視点をどう検証していくのかということの一つとしてコストの問題がある。コストをどう出して委託前と後の比較をどうするかということは検証委員会でもやる。どういう視点でやるかは課題となる。いろいろな視点でとらえていく。検証委員会の中でも議論して運営協議会にフィードバックしていきたいと思う。こういうことをやってほしいというのがあれば意見を頂きたい

委員：今の話を聞いていると、ことが逆で、要するに委託にすることはコストダウンが目的でやるのでしょうか。図書館というのは専門業務なわけで、図書館の質をアップするために経費はかかるけど委託して専門業者を入れてレベルアップするのか、視点が2つしかないはずだ。だから検証委員会をやると言っても最初の目的がこういうことでやりますということがはっきりしていればそれに対する答えを出せばいい。それを検証すればいい。説明がわからなかったのは全委託か部分委託かいくつかの段階があって経費削減のためには全委託だが、今はその第一段階で部分委託だとかそういうフォーマットがないと本来はおかしいと思っているのだが。どの視点で検証しますかというのは。

会長：委託の目的で明確な一つは経費削減。民間のノウハウを活用する中で今まで以上のサービスが期待できるのではないかというサービス向上に向けた委託。この2つだ。では今までのサービスがどうであったか。ということになると図書館の本来の専門

性とコストダウン。どうバランスを取れるのかが一番大きな問題であり、専門性が取れなくなるような危険性もある。いろいろな事例を見ていると、コストダウンをするがために担保出来なくなっているという事例もある。コストを下げるとどうしても専門性はレベルダウンする。それは状況として出てくることだと思うので市として、市民レベルで考えた時にそれは果たしてどうなのか、サービスを受ける側がはたしてそれでいいのか。コストダウンが優先なのかサービス向上が優先なのかということの二者択一というかそういう形になってくる。

委員：導入するときには目的がはっきりしていたのか。コストダウンならサービスが低下するのは仕方がない。そのくらいの覚悟でやっているのか。向上だというなら、本来外から入ってくる業者のほうが発注とか図書館業務に慣れている。それを目的なわけだからこちらが指示することは何もなしで本来できないとおかしい。委託先のレベルが低い、委託先がアルバイトを雇い、監督もこちらでやりますというのだったらコストダウンだ。目的が何かで、それに対して期待したものが取れたか取れないかそれがはっきりしないと、この業務を委託するんだというのが現場の館長になれば意味がない。本来最後この業務を委託することで最終形は職員がいなくなる。

委員：この前立川に行ったときに聞いたが、国分寺は規模が小さいから無理かもしれないねと言われた。それはある程度のボリュームがあってレベルがあって、ある種の専門性の高い業者が国分寺市の提示するコストでは受けられないということなのかと思って聞いていた。

会長：いろいろな視点がある。導入のきっかけはコストダウンということがあろうかと思うが。利用者からはコストダウンよりレベルが下がることの危機の方が大きい。2か月で状況としてどうなのか検証をうまくやっていく必要がある。こういう検証は短期間では出てこない。業者のほうも最初は力を入れてやるのであまりマイナス部分は出してこない。その辺をしっかりと見抜いて本来の市民サービスとはなんなのかとらえていく中で委託は望ましいのか、今後の継続なのか、あるいはもう一度見直すのか。それを含めて検証委員会の役割なのかなと思う。

副会長：光図書館に行った。図書館サービスではないが、カウンターは制服の人が並んでいて、今まで10数年使っていたが、前は制服ではなかったので寂しい感じがした。国分寺の図書館のアットホームさ、気さくにわからなかったことを聞いて、近かった。ベストとか着ていて何か遠くなった。聞くのに構えてしまう。個人的な受け止め方で単なる感想だが、印象はサービスを考えるのに大事ではないのかなと感じた。ボランティアという具体的な計画がある中でカウンター委託とどう馴染むのか。カウンターは図書館サービスの始まりで出口。気軽に聞ける環境、雰囲気づくりが大事。ボランティア導入も含め、いい形が作れていけばいい。考えていく必要がある。

委員：こういう話が出るのが重要、市の人は言いにくいかもしれないがこういうことまで言って理解を得ていくようにしないと。コストダウンなら、目的を持ったらどこか

で犠牲にするものもある。市の人は嫌なことは言わないというところがあるが、前もって言わなければいけない。目的が何か言わなければ言いようがない。コストダウンなのかサービス向上なのか分からないから。

会長：今の議論は大事。一番肝心なのは利用者がどう受け止めるか。自分の目的がちゃんと達成できるか、図書館の本来の目的は何かを押さえたうえで。コストが下がるとそのために出てくる悪影響は。それをどう抑えていくか。さまざまなことが出てくると思う。図書館の業務委託は国分寺にとって初めての経験。どう向き合っていくかが大事。運営協議会の中でも図書館内部でも議論が必要。

委員：障害者の人の仕事がなくなったと聞いている。図書館に異動だと思ったら公民館にいたので、仕事の内容的に負担になっていないか気になっている。土曜日でも仕事をされている。できなくてやめてしまうようなことがないようにしていただきたい。

課長：一つは委託で職員と委託の仕事が混じらないように。障害者の職員が電話対応をされていて、それが委託の仕事になるので仕事が被る。もう一つは図書館の配属時に障害の状態が職員課からも知らされていないと、足が悪いのかと誤って握力も。図書館はある意味肉体労働なので。公民館の仕事は具体的だが、図書館の仕事は抽象的なことも多く、そのあたりの苦手さもあった。公民館での接客は図書館に来る前の職場でも行っていて大丈夫。図書館で動いている時にも転んだこともあり動きのない仕事で、また部屋の予約とか、具体的なので、よくやっている。

会長：次は「子ども読書活動推進計画」

事務局：（「子ども読書活動推進計画」の25年度の実績と評価について説明）

会長：「子ども読書活動推進計画」は本来全庁的に行うもの。事務局を図書館が担当している。右側の担当部署を見ていただくとそれぞれのセクションが組み込まれていて、それぞれの部署でどういうことをやっているのか。一番関わりのあるのが図書館。多くの自治体で図書館が事務局になっているが取り組みとしては全庁的。ポリシーがあるので、今日どうかというのは難しいが、とりあえずの報告いただいたので、これについて意見。

副会長：講座の参加人数のばらつきがある。「妖怪の付き合い方教えます」は多くの参加者がいた。どうして人数が多かったのか。

事務局：富安陽子さんは子どもに人気の作家で妖怪がテーマだったので。

委員：妖怪ウォッチを連想させるものがあってそれで人気だったのでは。

事務局：富安陽子さんは、関西在住でめったに東京に出てこられないが、東京でのイベントにあわせ来てもらうことができた。小さい頃から富安陽子さんが大好きだった方や遠方からも来てくれた。妖怪もそうだが、富安さんは、もともと不思議な話を書かれていて子どもたちに人気のある作家。チラシやポスターを小学校に配ってPRした。ぶんバスに広告を出し、インターネット、ツイッターでも発信した。

委員：並木図書館は、とても頑張っている。めったに聞けない人呼んでいる。

委員：東元町文庫の講演会の参加人数 19 人とあるがそれほど少なくなかったのではないか。

アンケートの数がここに出ているということか。もっと多かったのではないか。

事務局：数えたのが 19 人だった。

会長：企画を立てる側の資質が大きく影響している。何が求められているか。図書館の司書の大事な仕事かなと思う。市民が何を求めているか。一番わかるのは窓口。窓口に出ているとわかる。何が読まれているのか。どういうことに関心を持っているか。窓口には図書館の運営にかかわるいろいろな材料があるということを改めて考える必要がある。今何に関心があるのかとらえて、不断の努力が必要。人を集めるには必死の覚悟が必要。ぶんバスにポスターを出したというが、大勢の方に来てもらいたいという気持ちがあるかないかで企画が成功するか否かは大きく変わってくる。図書館の司書の役割である。26 年度も出来上がりしだい報告を。

会長：27 年度予算。

課長：(27 年度予算について報告)

会長：次、報告事項。

課長：5 月 23 日の新緑まつりのリサイクル市に約 200 人来た。2000 冊の本を出した。各館常設でリサイクル本を出しているが、朝日新聞の多摩版に載り、問い合わせが多かった。市外の人が多かったのではないか。ブックカフェは「背中を押された一冊」という題で行った。落としどころのない企画は初めてで、市民参加により実現できた。リサイクル本は 1 割強ぐらいが残った。

都立多摩図書館については、東京都の教育委員会に正式に報告され平成 29 年 1 月にオープン。飲食コーナーがあることが分かった。協働事業で何か市の得になるようなことが引き出せるように。立川市の図書館と 6 月 3 日に相互利用の協定。高松図書館と若葉図書館が(国分寺市の)近くにある。教育ビジョンは概要版を配布したが、市のホームページから閲覧できる。5 年後にはこういう姿になっているということに向けて進めていく。

点検評価の準備をしている。年度の目的とリンクしている。

会長：それ以外に、平山議員より、小平の図書館に見学に行った報告を。

委員：小平の仲町図書館に見学に行った。斬新なガラス張りの 3 階建ての建物でコミュニティを重視しており、公民館との併設。青梅街道沿いにある。看板がないので何の建物かわからない。総合カウンターになっていて、予約の受け取り、新しい仕組み。

会長：場所は前と変わらない。機会があれば一度見てみるとよい。

委員：4 月 25 日もとまち公民館であった講演会は大変勉強になったことが一つ。魅力ある図書館を目指し、二つ窓口が大事新しいことをする。何もしないことは後退になる。

会長：機会があればいろいろな形でお話しできれば。図書館の独特な風土、図書館の温かみ、協議会の皆さんもいろいろな形で協力いただければ。

事務局：次回は 8 月 26 日(水) 午前 8 月 26 日午後 1 時 30 分本多公民館講座室